

米国の「日本通」を育成

「このままでは米国から知日派がいなくなる」
——そんな危機感から、

フォーカス

米政府や国際機関で活躍する次世代の「日本通」を育成する非営利組織(NPO)「センター・フォー・プロフェッショナル・エクスチェンジ(CEPEX)」

双日ワシントン支店長

多田 幸雄氏



EX)を立ち上げた。
一九八九年にシンク

クの客員研究員としてワシントンに派遣されたころは、日本の専門家があふれていた。ところが九七年に日商岩井(現在

は双日)支店長としてワシントンに戻ってみると、旧知の知日派たちの引退が近づいているのに後継者が育っていないことに気づいた。

「日本の専門家になることにメリットと将来性を保証する必要がある」と考えついたのが「国際ハローワーク」。日本に関する専門知識を身に付けた米国人の若者の就職支援が目的だ。

来年四月からJETP(ワシントン) 吉塚智子

プログラム(外国青年招致事業)の卒業生を対象に日本の大学院への留学プログラムを開始。日本企業での研修も支援し、米帰国後は日系企業などへの就職まで手助けする。

CEPEXの活動は十年の期限つき。「十年で結果を出し、モデル事業として他国との交流にも広がっていけばうれい」と話している。

(ただ・ゆきお 53歳)